

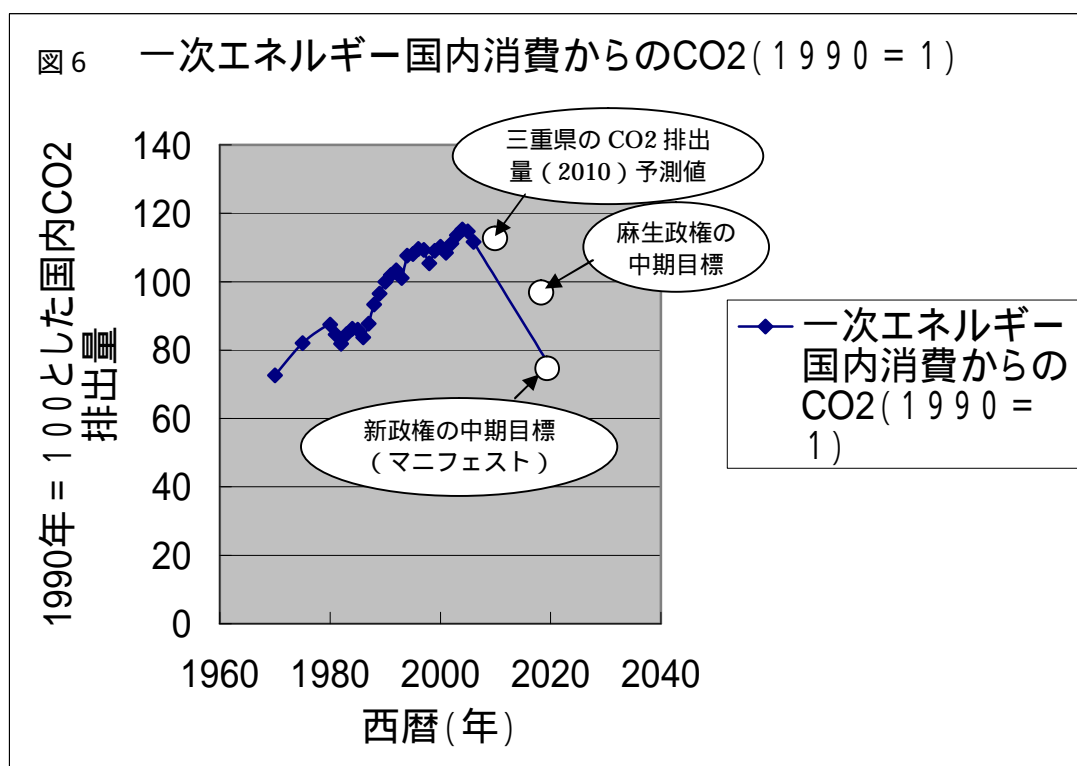
## 4章 わが国の中期目標に対応する三重県の環境対策

麻生前自民政権のときに設定した中期目標は、2005年比で2020年の温室効果ガス排出量削減15%であった。今となっては民主党新政権がこれを引き継いでいるかは疑問であるが、中期目標という言葉は平成21年10月5日現在で抹消されているわけではない。

他方、民主党等連立新政権が示している目標値は1990年比で2020年の温室効果ガス排出量削減25%である。これを2005年比で示すと、約30%削減となる。

温室効果ガスをCO<sub>2</sub>に読み替えて示すと、1990年のわが国の排出量を100とすると、2005年には114.7であった(「エネルギー・経済統計要覧 08」)。1990年比で2020年の25%削減は2005年比で34.6%削減となる。

図6は過去のCO<sub>2</sub>排出量の推移と、自民党による中期目標、民主党マニフェストの値を示す。但し、国内で消費した一次エネルギーから割り出した数値である(「エネルギー・経済統計要覧 08」p. 44より筆者作成)。



三重県で2010年にどの程度のCO2削減がなされているかを、表4に記してある新エネルギー導入量による約50万トンと、現在の県内水力発電量をCO2換算した27.1万トンの和と想定すると、合計約77万トンCO2となる。2010年のCO2排出量を表2から外挿すると図7に示すように、1990年比で約111となる。CO2排出量で示すと約2763万トンである。これから77万トンを引くと2686万トンとなり、1990年比で108となる。この数値が図6に示されている。三重県の中期目標をこのようにして推定するなら、どちらかというとな麻生政権が示した中期目標に近く、民主党のマニフェストを実現するには、余ほどの追加的努力が必要であることを、図6から読み取ることができる。

